

## 令和5年度 第1回 大府市生涯学習審議会議事概要

日 時 令和5年5月25日(木) 午前10時00分から午前11時15分まで

場 所 大府市役所 地下会議室 001・002・003

出席委員 会長 池田逸夫、副会長 池田美代子  
上野忍、相羽誠二、神田由美、館内三郎、石黒公子、大橋房代、  
山田由理佳、山本友和

欠席委員 井上啓子

事務局 市長 岡村秀人、副市長 山内健次、  
市民協働部長 近藤真一、  
協働推進課長 奥村喜美子、協働推進課担当課長 竹田守孝、  
協働推進生涯学習係長 平松雅也、協働推進生涯学習係技師 佐々木宏孝、  
共長公民館長 古田功治、神田公民館長 北井康弘、  
文化交流課長 田中雅史、子ども未来課長 川出陽一、  
学校教育課長 大山容加

欠席者 教育長 宮島年夫

傍聴者 なし

### 1 市長あいさつ

今年度は委員の改選の年であり、新たに4名の新しい委員をお迎えすることができました。また、昨年度に続きお引き受けいただく7名の委員につきましては、引き続きよろしくお願ひします。皆様の任期は令和5年度と令和6年度の2年間となります。公民館事業・生涯学習の推進のために、ぜひとも新しい目線で忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

新型コロナウイルス感染症につきましては、3年間あまり、様々な制約を受けてきましたが、このような状況の中でも、市民の皆様には工夫を重ねて様々な活動を行っていただきました。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響もやや落ち着いてきたということで、バイオリンによるまちづくりの一環である、大府みどり公園での野外クラシックコンサートの開催や、石ヶ瀬児童老人福祉センターでのeスポーツ事業の開始など、これまでにない事業を実施してまいりました。

今年度につきましても、引き続き感染防止対策を行ったうえで、様々な事業を実施してまいります。特に、本市出身の偉大な数学者である永田雅宜氏の功績を多くの方に知ってもらい、永田氏の思いを繋ぐことができるような広い意味での学習関連事業や、本市にゆかりのある鈴木政吉氏にちなんだ、小学校でのバイオリン学習、子どもや高齢者がバイオリンに親しめるような講座の開催には特に力を入れていきたいと考えています。

皆様にはこれからの2年間、生涯学習審議会を含んだ様々な場面でのお力添えをいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

2 委嘱状の交付  
机上にて配布

3 会長及び副会長の選出  
会長に池田逸夫委員、副会長に池田美代子委員が選出された。

4 大府市生涯学習審議会について（資料No.1）  
事務局：資料No.1に基づいて説明  
（質問、意見等なし）

## 5 議題

(1) 令和4年度生涯学習事業実績について（資料No.2）

事務局：資料No.2に基づいて説明

（委員）昨年度の公民館の利用者は、コロナ前と比較するとどれぐらいの割合になるのか。

（事務局）昨年度の利用者の総数は約22万人で、コロナ前の利用者は約30万人であったので、比較すると約7割程度である。

（委員）おやじの学び舎の成果発表会の実績が18人となっているが、出席者数か発表者数のどちらなのか。

（事務局）出席者である。

（委員）おやじの学び舎は、提示されたコースからいくつか決まった数を選択して参加する必要があるものなのか、それとも好きなコースを自由な数だけ選択して参加することができるものなのか。

（事務局）全13のコースがあり、好きなものを自由に選択して参加することができる。なお、多くのコースに参加し、出席率が高い方については、優秀賞を授与する。

（委員）成果発表会で、地域の中心となる区長さん達との交流会も兼ねることができれば、地域と得られた人材を繋げる場になるのではないか。

（事務局）貴重なご意見感謝する。今後の実施の際の参考とさせていただく。

（委員）永田雅宜賞の受賞者はいたか。

（事務局）数学検定での対象者は5人であった。

(2) 令和5年度に実施する主な生涯学習事業について（資料No.3）

事務局：資料No.3に基づいて説明

（委員）OBU-1グランプリをいつも楽しみにしている。大府市という場所で開催している大会としてではなく、もっと大府市に関わる人が多く出演している大会になると良いと思う。大会の中のどこかの時間で、市民芸人育成プログラムに参加した方の発表の場を設けることができれば、より地域性が出て

良いと思う。また、第一回大会の時の、市長とパンクブーの掛け合いが非常に面白かったので、第二回大会でも楽しみにしていたが、ビデオレターのみでの出演ということで、掛け合いが見られず残念だった。個人的な意見ではあるが、大会の開催日は市長の他の公務と被らない日にして欲しい。

(事務局) 市民芸人育成プログラムの参加者に発表の場を設けることについては、非常に悩むところではあったが、講座参加者から、与えられた枠ではなく、真剣勝負で戦って勝ちたいというご意見があったためそれを尊重し、プロとアマチュアを問わない真剣勝負の大会としてきた。しかし、講座参加者を含んだ大府にまつわる方に何かスポットを当てたいという思いで、昨年度はおぶちゃん賞という賞を用意した。OBU-1 グランプリについては、毎回同じ内容ではなく、何か新しい要素を加えていきたいと考えているので、色々なご意見を頂戴しながら新しい展開を作っていきたいと考えている。大会の開催日の件については、市長にそういったご意見があったことを伝え、上手く調整を図っていきたい。

(委員) 小学校の読書感想文が任意提出になった結果、私自身もボランティアとして携わっている、読書感想文を含めた夏休みの学習支援の申込数が格段に減った。国が指定している課題図書とは別に、博士のポケットを市の推薦図書にするなど、夏休み前あたりで紹介する機会があると、読んでみようかなという選択肢の一つとなり、より多くの方に手に取ってもらえると思う。

(事務局) 山本委員にご執筆いただいた本であるので、読書感想文など、様々な場面で活用できるようにしていきたい。

(委員) 読書感想文については、子どもが読書嫌いになってしまうことを防ぐため任意提出とした結果、だんだん減ってきているという経緯がある。ただ、良い面もあるため、兼ね合いは非常に難しいと感じる。博士のポケットの紹介については、小・中学校で読むことを薦めるとともに、子どもだけではなく大人に対しても、本を推薦する機会を増やせば、もっと色々な人に知ってもらえると思う。

また、ながラボ実施の目標の中には学力向上とあった。副産物的な要素としては良いと思うが、教員の立場からすると、算数や数学に興味を持ってない子ども達に、興味をもってもらうきっかけとなるように、事業を実施して欲しい。学力向上を目的に事業を実施してしまうと、学力向上にどれだけ寄与したのかという成果が求められることになり、本来生涯学習で目指すこととずれてきてしまうと思う。英語検定にも同じことが言えると思われる。

(事務局) 学力向上は副産物的な意味合いであり、ながラボ実施の目的の根本は「考えることは楽しい。」ということ子ども達に伝えることで、算数や数学に興味を持ってもらうことである。資料の表現では、学力向上が主な目的として認識されてしまうような表現をしているので、永田氏の想いを伝えることを念頭に表現を工夫していきたい。

(委員) 私も小学生の頃は算数が苦手で、当時このような講座があれば、もう

少し興味を持てたのかも知れないので、非常に良い取り組みであると思う。  
(委員) 公民館で開催される講座は、公民館を普段利用している人しか認知されていないことが多く、毎回同じ人ばかりが参加していることが多いと感じる。公民館を普段利用していない人に、まずは講座を開催しているということを知ってもらうために、例えばスポーツの講座なら体育館、文化系の講座なら愛三文化会館というように、市役所や公民館の枠を飛び越えて開催するとともに、市内全域で広く周知する必要があるのではないか。

(事務局) 公民館講座については、人気のある講座は再開催の要望が多く、リピーターも多い。そのような方々は、グループ化して団体での活動を行ってもらうように促している。また、開催場所や周知方法については、貴重なご意見として受け止め、他部署と連携を図っていきたい。

### (3) 神田公民館での全世代型サロン実施について (資料No.4)

事務局：資料No.4に基づいて説明

(委員) プレオープンには自身も参加したが、運営スタッフが3人と少なかったため、次回開催時にはお手伝いとして協力し、アドバイスを行っていきたい。今回子どもの参加が少なかったため、今後は周知の方法が課題になると思われる。

(委員) 全世代型サロンは、様々な年代の方が利用できるのも、良い取り組みだと思う。他の場所での実施など、この取り組みが市内全域に広がって欲しいと思う。

(事務局) 運営団体の「CURIOUS」は、SNSを活用することで、主に若者世代に広く周知していき、公民館は回覧板等を活用することで、主に地域の子育て世代や高齢者の方に周知していきたいと考えている。運営側の人員については、現在メインで動ける人は3人程度だが、地域の方のお力添えを頂き、協力しながら円滑に運営していきたい。

(委員) 横根公民館で開催されていた三世代もちつき大会に参加したことがあり、とても楽しかったと記憶しているが、コロナ禍では中止となっていた。コロナが終息を迎え、今後再び開催することはあるのか。

(事務局) 以前実施していた講座を再開するかどうかは、各地域を担当する館長の判断に委ねる部分もあるが、基本的にはコロナ禍以前に実施していたものは開催していく方針である。

(委員) 私が共和西自治区の区長であった時、自治区で高齢者を対象としたサロンを運営していた。そこでは公民館の調理室を利用し、季節に合わせたお菓子などの提供を行っていた。新型コロナウイルス感染症の影響で運営は終了してしまったが、参加者は毎回60人ほどいて盛況であった。運営スタッフについては、民生委員や婦人会等の団体のメンバーで当番を決めて、交代で年間の運営を行っていた。今後はもう少し規模の小さいサロンを作ること検討しているが、前回のサロン運営の経験を活かしたいと思っている。

(事務局) 貴重なご意見感謝する。他の公民館に展開する際の参考とさせていただく。

## 6 報告事項

令和5年度生涯学習審議会に関わる行事予定について(資料No.5)

事務局：資料No.5に基づいて説明

(質問、意見等なし)

### 副市長あいさつ

委員の皆様、長時間にわたりご審議いただき、誠にありがとうございました。本日は、令和4年度の生涯学習事業実績を始め、公民館の利用状況や令和5年度に実施する主な生涯学習事業などについて担当から説明させていただきました。

令和3年度と比べますと、中止となった講座の件数も減少し、少しずつ公民館を利用される方が戻ってきていると感じております。今月の8日から新型コロナウイルス感染症の取扱いが変わりましたので、引き続き感染防止対策を行いながら、今年度は様々な事業をフルスペックで実施していきたいと思っております。

また、委員の皆様におかれましては、今年度から2年間、大府市の生涯学習事業の推進のために、貴重なご意見を頂くとともに、ご協力やご支援を頂きたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

### 【次回予定】

第2回大府市生涯学習審議会 令和5年8月25日(金)午後2時から  
大府市役所 2階203・204会議室にて